

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3871400317		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム 昴星		
所在地	西予市城川町下相 6 9 3 (電話) 0894-82-1027		
管理者	高田 富美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 19 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 27 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 840 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 27 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名
要介護 3	7 名	要介護 4	1 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 87.5 歳	最低 79 歳	最高 107 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間地の高台に建てられた三階建ての洋館で、どこからも目に付く。ホームのバルコニーからの景観は抜群で見飽きることがない。運営法人は南予一帯で多くのグループホーム等を運営しており、しっかりとした運営理念と運営基盤を有している。訪問して感じるのは、利用者一人ひとりが思い思いに、自分が過ごしたいように自由に過ごしていることである。穏やかに温かく支えている職員の取り組みが感じ取れる。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

理念を職員全員が自分のものとして捉え、日々具体的に活かしていく手立てとして、全員で作上げるユニットの理念、各自の目標としての理念を設定して取り組んでいる。日々の記録の様式の見直しを実施している。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

運営者、管理者は初心に立ち返り、利用者本位のケアの質の向上に役立てている。職員全員が自分のこととして捉えて取り組むことで、思い当たることが見つかり、反省や見直しができている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

様々な立場の方に参加してもらいたいと努力しているが、日程の調整等が難しく、参加者が少ない傾向がある。内容はホームの行事報告が多い。地域で生活するうえでキーパーソンとなる方をメンバーに加え、双方向の話し合いの場とし、ホームと地域との交流促進の力となるよう、またメンバーからの率直な意見が具体的な改善につながるような会議とすることが求められる。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

暮らしぶりは、写真などを多く盛り込んだ毎月の便りで知らせている。健康状態や金銭の報告は面会時または電話で知らせている。近隣の方が多く、気軽に来訪する家族がほとんどなので、常に話し合いがもたれており、出された意見を、できることから日々の生活に活かしている。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームの立地条件から日常的に隣近所と交流することはなかなか難しいが、中学校の運動会に参加したり、夏祭りなどできる限り地域行事に参加している。水利組合にも加入している。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム昴星

(ユニット名)

第1ユニット

記入者(管理者)

氏名

高田 富美

評価完了日

平成 19 年 10 月 27 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営理念はホーム内の廊下で見やすい位置に掲示している。年頭にスタッフ全員で目標を立て、それに向かって支援できるように努力している。  (外部評価) 法人の理念を念頭においたうえで、ユニット独自の理念を職員全員で話し合っつけている。	※	全員で取り組むために、年頭に目標を作成し体制を整えたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 新スタッフには理念のことは伝えてはいるが、全員が取り組んでいるとは思えない。  (外部評価) 職員一人ひとりが個別に一年間の目標を掲げ、スタッフルームに掲示して日々のケアに活かしている。	※	言葉に出して言う。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に家族への説明を行い、ホーム便りでも日常生活ぶりを理解していただいている。地域には運営推進会議等で、少しずつでも理解していただけるように努力している。	※	面会時や家族会などを通して、あるいは地域の行事に参加するなどして、ホームの理解・啓発に努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームは高台にあり、すぐに立ち寄れる場所ではないが常時オープンにして、いつでも入っていただけるようにしている。散歩などの外出時出会った人たちと、気軽に声かけ・挨拶を大切にしている。	※	来て頂けないならこちらからも行ける様に、もっと努力したい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 中学校の運動会や地区の夏祭り、秋祭りに参加し利用者の楽しみとなっている。納涼祭を企画し行ったが、大勢の住民の参加があり、付き合いは拡大している。  (外部評価) 中学校の運動会に参加したり、夏祭りなどできる限り地域行事に参加している。水利組合にも加入している。	※	今後さらに、交流ができるように努力したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域高齢者にまでは行き届かないが、問いかげには分かる範囲で答えている。	※	要請があれば介護教室なども企画したい。(それを行うことにより全員の知識・技術の向上も図れると思うので取り組みたい)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員が理解しているとは思えない。改善できるように評価後見直しを図りたい。  (外部評価) 運営者、管理者は初心に立ち返り、利用者本位のケアの質向上に役立てている。職員全員が自分の事として捉えて取り組むことで、思い当たることが見つかかり、反省や見直しができている。	※	今回2度目なので、しっかりと改善すべき所を話し合い、サービス向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、ホームの年間行事や生活状況の報告を行い、評価への協力を依頼したり評価の結果報告を行っている。また地区からの要望や意見などを聞き、それらについての支援のあり方について改善策を考えている。	※	いままで以上にコミュニケーションをとりながら、会議が有意義なものになるように、サービス向上させていきたい。
			(外部評価) 様々な立場の人に参加してもらいたいと努力しているが、日程の調整等が難しく、参加者が少ない傾向にある。内容はホームの行事報告が多い。	※	地域で生活するうえでキーパーソンとなる方をメンバーに加え、双方向の話し合いの場とし、ホームと地域との交流促進の力となるよう、またメンバーからの率直な意見が具体的改善につながるような会議とすることが求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 連絡事項など、必要なこと以外での接点が少ないように思える。	※	今後は市担当者との連携を図り、相談や連絡を密にし積極的に活用したい。
			(外部評価) 目の前に役場があり、担当者、ケアマネジャーと顔なじみの関係をつくっている。特に同じ建物内にあるデイサービスセンターを通してつながりができている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を持ち、職員に発表させることにより理解が深まるようにしている。いつでも見ることができるようファイルにしている。現在までには必要な人はいない。	※	今後も制度や意義の理解が得られるように、勉強会を行い、研修等にも参加する機会を作りたい。必要な方がおられたときは、速やかな対応が出来るよう関係との話し合いが出来るよう支援していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行い、職員自身の責務や義務について理解が深まるようにしている。常に利用者の立場でものを考え判断し、自分にされたくないことはしないなど優しく接している。休日は休養を十分にとる様に心がけている。	※	職員同士で虐待について、率直に意見交換をし虐待が未然に防げるように勤めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前訪問や入居契約時に利用者・家族と話し合いを行い、契約に関しての説明を行っている。それ以外にも電話での説明もし、契約の締結・解約ともに不安や疑問点が無いように十分話し合い納得されるようにしている。	※	利用者・家族の疑問や不安がそのまま伝わるように、入居後の信頼関係づくりをしている。家族の面会時や電話を通じ、細かいところまで情報交換をしている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が不満を言われたとき、すべてを職員間でも取り上げ改善できるところは行い運営に反映している。介護相談員の派遣もあり、また市役所職員の訪問時なども利用し何でも聞いて貰うように勤めている。	※	利用者との信頼関係がなお一層強いものになる様に努力したい。介護相談員の見解を聞き、それを基に、職員間で話し合い、運営に反映したい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 身体の状況（健康状態）やホームでの暮らしぶりはなどは、面会時や電話で報告している。金銭管理は、ある一定額以下になれば連絡し、面会の折に金銭出納長での確認をいただいている。（現金を預かる場合不安を与えないようお預り証を発行している。）毎月送付しているホームの新聞に写真を掲載し、ご家族にホームでの暮らしぶりが伝わるようにしている。 <hr/> (外部評価) 暮らしぶり等は写真を多く盛り込んだ毎月の便りで知らせている。健康状態や金銭の報告は面会時または電話で知らせている。	※	個々に合わせた細かいことも報告しているが、直前であったり、電話での対応がほとんどである。報告の方法は改善も考えている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居契約時に、苦情申し立てできる窓口の説明をしている。また、玄関にご意見箱を設置している。不満のご意見があれば、改善し運営に反映する。 <hr/> (外部評価) 近隣の方が多く、気軽に来訪する家族がほとんどなので、常に話し合いがもたれており、出された意見をできることから日々のケアに活かしている。	※	ご意見箱には、喜んで頂いていることしか入っていない。気軽に何でも言っていただけるような環境づくりをしなければいけないと考えている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスを毎月開催し、職員の意見交換等を行っている。また全員が見ることができ確認するように情報交換ノートを置いて活用している。	※	気持ちよく仕事をするためにも、職員の声は十分に聞いているつもりであるが、管理者の範疇にないことは、運営者に相談し解決している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じた勤務体制が取れている。	※	今後も状況に応じた調整を行う。また職員の希望も取り入れながら、利用者にとって万全の体制になるように工夫したい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 止む負えない事情で離職・移動などがあるが、信頼関係が構築された後は大変残念に思う。利用者がそのことについて、引きずるような今のところはない。  (外部評価) 一度に多くの職員が異動することはなく、どの職員も全ての利用者との馴染みの関係を築いており、代わることによる混乱は生じていない。	※	会社の方針での移動は、最小限になるように働きかけたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会などの参加が出来やすいように費用の負担をしている。  (外部評価) 月に一度、テーマを決めて勉強会をしている。外部の研修会の情報を提供し、必要なものまたは希望によって受講できるようにしている。	※	研修会等の参加が出来ていない。職員の能力に応じた研修参加を促す。ホームでの勉強会を継続して行い、それを生かすことが出来るように現場で指導し共に成長したい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 社内では、月1回のホーム長会議が開催される。サービス担当者会議等の参加やグループホームの研修会参加し、交流を深めサービスの向上をするよう努力する。	※	他のホームの職員に相談したり、意見の交換は行っているが、決まった所だけでの交流なので拡大する必要もある。
			(外部評価) 法人内の系列グループホーム間の管理者交流の場はあるが、職員同士の交流まではしていない。	※	他法人の同業者ともネットワークをつくり、管理者、職員ともに参加して勉強会や交流をもつことで、日頃の悩みの解消などを通してホームのサービス水準の向上につなげていくことが望ましい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の悩みや抱える問題の相談に乗り、解決できるように努力している。また飲み会や食事会を設け、発散できる場を作っている。	※	休憩時間がいつも十分に取れているとは思えない。無理の行かないように、リラックスできる時間を設け、職員間の小さなトラブルをが起きないようにしている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員が自己評価を行い、それを見ることで長所・短所や考えが分かる。良いところは褒め、悪いと思えるところは、努力するように励ます。	※	カンファレンス時や昼食時などを利用し、職員の良いところをさり気なく皆に伝えることで、認められたという自信に繋がるように配慮している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査時に本人・家族の話を十分に聞くようにしている。また相談に応じる場合にも、家族関係や生活歴なども聞いている。入居までに信頼感権が結べるように何度も話せる機会を作っている。	※	少しの不安でも払拭できるように、十分な話し合いを行いたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査時に本人・家族の話を十分に聞くようにしている。また相談に応じる場合にも、家族関係や生活歴なども聞いている。入居までに信頼感権が結べるように何度も話せる機会を作っている。	※	少しの不安でも払拭できるように、十分な話し合いを行いたい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階では、他のサービスのことは考えられない状況の方が殆どで、入居後状態の改善が見えたとき、あるいは状態が改善できると感じたときは、速やかに報告し色々なサービスの利用を提案している。	※	今後も必要とされるサービスを見極める努力をし、本人・家族の求めるニーズに添った対応が出来るように努めたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に、何度でも来ていただき、ホームでの様子を感じていただけるようにしている。本人が来れない場合でも家族が安心できるように見学を進めている。  (外部評価) 本人、家族に繰り返し来訪して見学してもらうことで不安を解消し、自然に馴染んでもらいながら入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人が若いころ得意とされていた事や、苦勞して克服されたことなど理解し、話の中に時折取り入れ教えていただいている。  (外部評価) 季節の話題や地域の慣わしの話などを聞かせてもらったり、広告でゴミ箱を折るなど生活の知恵を教えてもらって活用している。	※	共に助け合う関係性を見出し、喜怒哀楽を分かち合える関係で痛い。職員は出来ること・出来ないことの発見を見極めるように、観察力を養いたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人・家族の訴えを十分に聞き、共感し、共に支えていく関係作りをしたい。	※	日常の生活ぶりを見ていただくことで、職員と本人の関わりや状況の理解が出来、より深い信頼関係づくりに結びついている。状況によっては家族に1日滞在していただき、家族からの意見や要望を取り入れ、意見交換も出来た。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) いままでの生活歴や習慣などを知り、面会時や電話で家族を心配している様子などを報告している。面会を本人と共に喜び、帰られる時は安心していただけるように共に笑顔で送る用努力している。	※	本人の希望の実現は叶わないことの方が多いが、それに近いことが出来るように、家族の意向との折り合いをつけるべく努力をしている。(自宅への一時帰宅や外泊が可能になった。)
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望があれば、可能な限り希望のところに出来るようにしているが、思いの表出があまりない。デイ・サービスを利用している馴染みの方々との交流は図っている。	※	馴染みの人も高齢であるため、こちらからも出向いて行けるように努力したい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 風船バレーや歌などのレクリエーションで、一緒に楽しむことが出来るようにしている。	※	難聴者が多く、利用者同士の会話が成立しないことが多い。職員が媒介者となり、楽しく生活できるように支援したい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 在宅復帰されても、デイ・サービスを利用されたり、家族との情報交換はしている。今後の支援方法なども担当の介護支援専門員に相談している。	※	終了後も、関係は継続していく努力しなければならない。(家族から、入居申し込みがある。)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思の疎通の出来ない方に対しては、笑顔や表情で判断し、出来る限り穏やかな生活が営めるよう支援している。  (外部評価) 利用者の住まいを訪問し、生活ぶりを把握して日々の暮らしに活かしている。毎日のなにげない会話の端々から希望や意向を汲み取る努力をしている。	※	本人との関わりの中で、何を望んでいるのかを把握し、今後も支えあいたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問や、本人・家族との関わりで情報収集で大方出来ている。	※	これまでの長い人生暦とか、新しい入居者の事などまだまだ継続して、より詳しく情報の収集はしなければいけないと思う。プライベートな所への踏み込みもあるので、職員全体でそれを共有し、注意しながら支援することを心がけるなければならないと思う。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 本人の持てる力を十分に発揮できるように、ほかに出来ることはないかなど観察しながら支援している。起床時・朝食時の顔色や表情を察知し支援している。	※	個別に何が出来て何が出来ないかの状態把握を行い、見守り・声かけをし、本人の生活リズムをつかみ、職員間の観察力を養い連携を図りたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケアカンファレンスを開催し、職員間で情報交換し家族の意向を取り入れた介護計画を考えている。  (外部評価) 常にケアの評価ができるよう、日々の生活記録の上にケア目標を掲げ、担当者が利用者本人・家族の要望を把握して土台を作成した上でカンファレンスを行い、それぞれの気づきを出し合って介護計画を作成している。	※	昼の休憩時間をカンファレンスに当てることもあり、職員のアイデアや意見を取り入れながら本人・家族の意向を十分踏まえた計画を作成したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の状態に即したプランを作成するべく努力はしているが、不十分である。  (外部評価) 月一回のカンファレンスで見直しをし、少しでも変化があれば小さなカンファレンスを繰り返し、一人ひとりの状態に即した具体的な計画を作成している。	※	本人の現状に即したプランになるよう、本人・家族・職員の話しあえる場を作り、様々なアイデアも取り入れることで、現状に応じたプランにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務日誌・利用者用個別の申し送りノートなどの記録を行い、勤務交代時に申し送りを行情報の共有をしているが、的を得た記録になっていない。	※	利用者の状況や対応など記録の仕方の改善を行い、介護計画に反映できるようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者の家族が来られた時、状況を聞きながらケアに対する要望などを話し合っている。  (外部評価) 病院受診や墓参り、自宅への外出など利用者の要望にそった支援をしている。	※	面会に来られたときや色々な機会に、家族との対話を通じて希望や要望を聞ける時間をもちプランに反映していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議等を利用し、協力をお願いをしている。区長・民生委員・消防・学校等輪は広がって来ているが、まだまだ不十分と思える。	※	ボランティアなどの協力を得たい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性があれば、ほかのサービス関係者の方と話し合い対応する。	※	必要に応じて対応していく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) ホームは介護予防対応しているため、支援センターとは連携を取り協働していきたいと考えている。	※	運営推進会議等と通うし情報交換を行い、今後も協働できる体制づくりをしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望する医師による診察が受けられるように、また病状により、希望する医師に受診介助を行っている。  (外部評価) かかりつけ医は様々だが、ほとんど職員が付き添って受診しており、日々の状態を医師に伝えて医療との連携を密にしている。受診結果については必ず家族に報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 職員どうしでも話し合い、主治医に状態の報告を行いながら、検討、支援を行っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 契約している医療機関より毎日、状態について、連絡・相談が出来ている。職員の中にも看護師の配置を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、なるべき面会に行き安心できる様に配慮している。医療機関との情報交換することで連携を取っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に本人・家族の意向を聞き、医療連携体制の同意を得ている。そのときの状態により適宜、主治医や家族と相談しながら方針を共有している、  (外部評価) 細部にわたるマニュアルをつくり、入居時に家族と話し合い確認を行っている。これまでの事例を通して方針を共有しているが、職員は不安を抱えている面もある。	※	方針や対応を理解しているつもりでも、家族の気持ちは状況の変化によって揺れ動き、不安が増してくるので、繰り返し医療関係者、職員、家族で話し合いを重ね、利用者の尊厳を第一に考えながら対応していくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) チームとしての支援体制は整っている。今までの経験を生かし、今後も変化に備えた検討や準備を行いたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えの前に、新しい環境に馴染めるよう関係者と本人が会う機会を持ち、状態の把握が出来る様に支援している。またその事により本人が自分のことを分かっている安心にもつながり、ダメージを防いでいる。家族との話し合いは十分にする必要があり、細かいところまで全員の理解が必要と思われる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 日々努力はしているが、完璧なものとはなっていない。  (外部評価) 言葉かけや話し方には十分配慮し、人格を損ねることがないように注意している。個人情報にかかわる記録は他の人の目にふれないよう配慮して取り扱っている。	※	声かけや記録など全ての事において、注意し徹底するための勉強会を開催するなど努力したい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望や分かる力に応じた説明をし、他の利用者との関係が壊れないように支援している。難しい場合は気分の落ち着くのを待ち、選択肢を設けながら自己決定を尊重している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切にしているが、時には希望どうりいかない場合もある。瞬時に対応できない場合は声かけし、理由を述べ待っていただく。  (外部評価) 朝は利用者のペースで起床してもらっている。その他、畑に出かけたり、歌をうたったり、好きなことをして過ごしている。	※	まだまだ不十分な点があると思えるので、全員で改善や、工夫を行いたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 今までに、美容院を希望された方は同行介助していたが、現在希望者はいない。職員が行うことを家族・本人共に希望されそのようにしている。意思の疎通が可能な方の洋服選びなどは楽しみの一つでもあり、尊重している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの分かっている方には、誕生日などその献立にしている。出来る方は調理の下ごしらえや配膳・後片付けなど一緒にしている。  (外部評価) 座る位置や順番を工夫して、利用者それぞれがゆっくり食べることができるよう支援している。片付けを積極的に手伝ってくれる利用者があり、お任せしている。	※	ホームで取れた野菜をふんだんに利用し、利用者の好きな献立を取り入れている。焼き芋などサツマイモの利用することも多い。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望があり、身体的に問題ない方は自己管理もあるが職員が管理している。	※	本人や家族からの持込が少なく、また希望を聞いてもいわれる方も少ない。現状で満足なのか見極めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 本人の希望時や表情を察知し、声かけしトイレ誘導、あるいはオムツの取替えを行っている。身体機能に合わせて夜間安心して休めるように、		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的にいつでも入浴できるように声かけしている。  (外部評価) 要望があれば毎日でも入れるようにしている。車いすの方も湯船に入り、ゆっくりつかれるよう介助している。また羞恥心を抱くことがないよう同性介助に配慮している。	※	夜間帯の入浴も可能だが、日中に入りたい希望が多い。今後もいつでも可能なことは伝えたい。拒否される場合の時間を置いて声かけをしている。ほかの対応や工夫も検討していきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の失禁に対する不安を解消するため、パット利用を提案し、使用することで安眠できるようになった。声聞き取れるようにドアをすかしておくことで安心睡眠している。自室だけでなく、共有スペースでの昼寝をされたり、自由に過ごされている。	※	状況の把握が出来ていない方もあり、夜間帯の徘徊や奇声・大声に睡眠を妨害されることもあり、部屋の移動などを検討する必要があるかもしれない。苦情が出たときは速やかに対応したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 役割を持つことで目に輝きが出てくる。調理・軽い掃除などを職員と一緒にやっている。それらが楽しみごとであり気晴らしの一つとなっている。  (外部評価) 料理、掃除、洗濯などの家事を担当している時はいきいきと目が輝いている。歌をうたったり塗り絵をしたり、様々な趣味の活動ができるよう支援している。	※	農業をしていた人が多く、畑へのこだわりがある。ホームの畑での軽作業の支援も行いたい。秋には芋堀理を予定している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理能力のある方のみ、小銭を持たれている。(家族が手渡ししている) 全員の方から一定額を預かり管理している。	※	「お金がない」と不安な方には預かっているお金を見ていただくことで安心されている。必要な物の買物に出かけ、自分で支払いをされる方もあるが、殆ど困難な方が多い。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望時や声かけにより、散歩など実施している。	※	利用者一人に職員一人が付き添わなければいけないなど人員の問題もあり、毎日では出来ていない。
			(外部評価) 日用品を買いに行くなど、要望があれば気軽に出かけるように支援している。	※	
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) レクリエーションをかねた外出は(遠出) 数ヶ月ごとに行っている。家族と一緒に外出は今のところ希望がない。	※	本人の希望が叶うように、努力したい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があるときは、家族の出られる時間帯に出来る様に支援している。手紙は書いておられる場合、一緒に投函するなどしているが、滅多にない。	※	習字や絵を描くなど検討中であり、それが出来たとき家族へ送るなど、やり取りが出来る様に支援したい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 殆ど家族の面会であるが、職員の行き届いた接遇が出来る。	※	気持ち良い挨拶をし、お茶を提供したりおやつの時間には一緒に楽しんで頂いている。会話の中に入れていただく場合もある。友人への声かけのお願いをすることもある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 不潔行為や危険を回避するため、行っている。	※	家族からの要望がある場合や、危険を察知した場合は止む負えず行っている。(鍵・つなぎ服・ベッド柵) 職員の制度理解は出来ているが、さらに勉強会を行いたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム玄関のドアを開けるとチャイムがなり、自由に入りが出来る様になっている。その音で確認するようにしている。  (外部評価) どこからでも入り口が見渡せるので、外出の兆しがあればいつでも寄り添って出かけるようにしている。三階建ての洋館になっており、一階のデイサービスの受付前を必ず通るので、外出を察知することができる。	※	自由を束縛しないように暮らしていただきたいが、夜間徘徊がある場合、必要に応じて鍵を使用することがある。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中の居場所の確認は、見守り等で行っている。夜間帯は巡視することで、所在・安全確認を行っている。	※	安全確認には注意を払い、引き続き努力する。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要なものの持込はないが、何が危険なものになるか分からないので気配り目配りをしている。	※	事故に繋がらないように、薬や包丁などの保管には十分注意したい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 病院での転落事故で不自由な方々や、誤嚥を何度もされる方などの対策は検討している。マニュアルも事務所に置きいつでも学ぶことが出来るようにしている。	※	職員全員が、対応できるわけではなく、不安は大きい。今後もシュミレーションし対策を考えたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習は定期的を受けているが、全職員が行えているわけではない。マニュアルを事務所に置きいつでも学べる状態にある。	※	応急手当や初期対応の仕方の訓練を受け、緊急時に備えたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の方々の協力が得られるよう、働きかけている。定期的に避難訓練を行っている。以前、豪雨のとき地域消防団の協力で水害を免れることが出来た。	※	様々な災害の対策を講じ、随時、対応できるようにする。
			(外部評価) 年二回の避難訓練を実施している。車いすの方が半数近いので、非常階段を利用して避難するにはかなりの人手がいることを実感している。集中的に雨が降ると裏手の山から水が溢れてくるため、土嚢の準備もしている。	※	近隣の応援を得られるよう、地域に呼びかけて住民を巻き込んだ訓練を実施し、協力体制を築いておくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居規約時に、説明を行い理解していただくようにしている。家族に現状を話し、予測し得るリスクについて相談し一緒に対策を考えている。	※	継続して、理解を求めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、変化があり必要と思われる時、速やかに医療機関に報告を行っている。また、頻回にチェックし、申し送りの際、正確に伝達し対応している。	※	日常の状態はよく観察し、変化に敏感になるよう観察力をつける。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服・外用薬共に説明書を一人ひとりファイルにし、職員が確認することができるようにしている。薬事辞典を使用し薬の効能や副作用を学んでいる。病状の変化には敏感に対応できている。	※	全職員が理解しているわけではないが、病状の変化の発見には機敏に対応できている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 殆どの職員が便秘の経験があり、及ぼす影響も概ね理解できている。野菜をふんだんに取り入れた献立を立てている。芋を使ったおやつや、ご飯にも麦や雑穀を入れたり工夫している。水分摂取や体操にも力を入れて、取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔清拭は殆どの方が、習慣になっている。出来ない方や確認が必要な方は職員が対応している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量に関しては、コップ入れた量などでおおよそ把握し、ミキサー食の場合や水分の飲み込みが出来ない場合は、一緒に混ぜている。ご飯におつゆやおちゃを入れている。食事中は勿論、10時の3時のおやつ・入浴後の補給を忘れない。  (外部評価) カロリーや栄養バランス、水分摂取の必要量を把握しており、それぞれの摂取量を記録することで確実な支援ができるよう配慮している。	※	冬に向かいトイレに行くことを嫌がり、水分摂取量が減らないよう注意したい。記録用紙の作成をする必要があるので検討したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症のマニュアルを作成している。勉強会も開催したが全員が参加しているわけではないので、時期を見て行う予定である。持ち込まない・持ち帰らないの精神で手洗を励行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾・台布巾にいたるまで、毎日消毒している。時には天日干しも行い、衛生面の気配りをしている。食材は新鮮なうちに使い切るようにしている。毎日配達していただいているので、在庫が少なく管理しやすい。ホームで収穫する野菜も豊富にあり、新鮮な材料を使用できている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 清潔に掃除が行き届く様に、注意している。水はけが悪く、大雨の時にはホームに入られる方に迷惑をかけている。	※	水はけのことで、関係機関への相談は行っている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 職員が持ち寄る季節の花々が切れることなく、季節感は味わうことが出来る。夏の日差しには、カーテンを引くなど対応している。主要道路から距離があるため、車の騒音も気にならない。  (外部評価) 共用部分はゆったりとしたスペースがあり、半円形のバルコニーや畳コーナーといった楽しい雰囲気を感じることができるよう工夫している。また、あちこちに季節の花が飾られており、季節感にあふれている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の端に椅子を置き、寛げたり休憩の場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 人形や写真・好きな本・使い慣れた食器や毛布など、お気に入りの物を持ち込んでいただいている。作品や本人の描いた絵を飾るなどしている。  (外部評価) ベッドと整理箆箱は置かれているがすっきりと片付き、生活感があまり感じられない居室が多い。一律の長いカーテンが目につく。	※  ※	仏壇や神棚など、自由に設置出来ることをお話ししているが、家族が管理されているのか今のところない。  居室は利用者にとってプライバシーが守られ、安心して過ごせる居場所なので、これまでの生活の延長線上として、また、終の棲家として大切に考え、馴染みの品々に触れることができるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓を開けたり、換気扇を回したり、空気のよどみに気配りを行っている。一人ひとりに合わせた体感温度での対応をしている。(衣服などの重ね着)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物全体がバリアフリーであり、廊下・トイレ・浴室には手すりが設置してあり、本人の能力に応じた使い方ができる。残存能力を活用し、出来る限り自己能力の維持・向上に繋がるよう支援している。	※	出来る限り個別に対応しているが、少しのことで機能低下は否めない。今後も個別に対応していきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 場所の認識が出来るように、大きく名前を書いたり、混乱しているとき分かる様に説明している。失敗に関して励ましであったり、さり気なく話題を変えて対応している。	※	理解できないから混乱があるので、その場での対応に勤めたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 物干しとしての利用もあり、本人とのコミュニケーションづくりの場として活用している。景色を眺めたり、冬場は日向ぼっこをする場所となっている。また外に小さな花壇があれ、花やねぎ・ミニトマトの栽培や収穫の楽しさを味わっていただいている。	※	ホームの外にも畑を持ち、季節の野菜作りや収穫を喜ぶなど、している。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	病院の受診や入浴方法など抱える不安も大きいですが、安心して生活できるように傾聴し、職員一人ひとりが努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者の思いをゆっくりと聞けるように、記録を一緒にテーブルで行ったり、本人の好きな折り紙などをつったり、また夜勤のときなどお茶を飲みながら会話するなど職員が思い思いに作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	昼寝（自室であったり、畳の上など）や読書なども、干渉することなく自由に自分のペースで過ごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ADLが低下している方も多いが、関係性を大切に、日常感謝の気持ちを大切に生活していくことでよい表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての人が出られる訳ではないが、車椅子の方も希望に応じて散歩や遠出をしている。お墓参りや懐かしい場所への外出はできていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望する医師や、主治医との連携が取れており、必要な医療が受けられている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望には耳を傾け、柔軟に対応しているが、すぐに行えないこともある。（専門医の受診など）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	細かいことも家族に理解していただけるように、連絡はこまめにしている。家族からも細かく事情を聞かせてもらっている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	デイ・サービスの利用者との接点をもう少し多くしたい。交通の便が悪いため地域の人々がこられることは少ない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回を重ねることで少しずつではあるが、繋がりは広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	よく話し合い、相談し気持ちよく働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	中には、不満の多い方もおられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員との信頼関係は、ほぼ出来ていると思う。サービスの向上には日々努力し、いつも今以上を目指したい。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員一人ひとりの年間目標が達成できるように日々努力し、利用者本位の姿勢での生活が送れ、毎日笑顔を見ることができるようになっている。自然に溢れたこの地を生かし、昔懐かしい遊びや作業を思い出しながら、小さな幸せを感じのんびりと穏やかな生活が送れる様に共に暮らしたい。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

## V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 昴星

(ユニット名)

第 2 ユニット

記入者(管理者)

氏名

富永 元気

評価完了日

平成 19 年 月 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 運営理念は見やすい位置に掲示している。  (外部評価) 法人の理念を念頭においたうえで、ユニット独自の理念を職員全員で話し合っつけている。	※	地域との交流の場をもっと増やしより地域に溶け込める様に今まで以上に地域行事等に参加したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者からの運営上の方針・理念を理解する様に説明をし、スタッフ一人ひとり信念を持って取り組んで貰える様に伝えているが満足できる結果がでていない。  (外部評価) 職員一人ひとりが個別に一年間の目標を掲げ、スタッフルームに掲示して日々のケアに活かしている。	※	年頭にスタッフ一人ひとりの目標を定め、それを見やすい位置に掲示し、いつでも目標が確認できるようにする。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り理解して頂ける様に、家族会を行ったり、運営推進会議では運営役員には理解して頂けるよう取り組んでいます。	※	地域の行事や施設行事などのさいには家族会を開催したい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームは立ち寄りやすい場所がないため、行事などのチラシを配布するなどし立ち寄ってもらえる様に努めている。	※	ホームに来てもらうだけではなくことからも積極的に出かけていけるように努力したい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 中学生の職場体験などを受け入れたり、納涼祭を行ったりし、地域との交流は出来ていると思われる。  (外部評価) 中学校の運動会に参加したり、夏祭りなどできる限り地域行事に参加している。水利組合にも加入している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 話し合いの場を持つ様に努めてはいるが地域貢献には至っていない。	※	暮らしに役立てる事はないか状況を見極める力をつける。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の評価を反省し、理解する様にスタッフ全員が改善できるように取り組んでいるがまだ改善が出来ていないところがある。  (外部評価) 運営者、管理者は初心に立ち返り、利用者本位のケアの質向上に役立っている。職員全員が自分の事として捉えて取り組むことで、思い当たることが見つかかり、反省や見直しができている。	※	前回の評価と今回の評価をしかと受け止め、サービス向上に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、年間行事や生活状況の報告を行い、外部評価の協力を依頼し、外部評価の結果報告を行っている。 また、地区からの要望や意見などを聞き、支援のあり方についての改善策を考えている。	※	いままで以上にコミュニケーションをとりながら、運営推進会議が有意義なものになるように、サービス向上に努めたい。
			(外部評価) 様々な立場の人に参加してもらいたいと努力しているが、日程の調整等が難しく、参加者が少ない傾向にある。内容はホームの行事報告が多い。	※	地域で生活するうえでキーパーソンとなる方をメンバーに加え、双方向の話し合いの場とし、ホームと地域との交流促進の力となるよう、またメンバーからの率直な意見が具体的改善につながるような会議とすることが求められる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 連絡事項など、必要な事意外での接点が少ないように思える。	※	今後は市担当者との連携を図り、相談や連絡を蜜にして積極的に活用にしたい。
			(外部評価) 目の前に役場があり、担当者、ケアマネジャーと顔なじみの関係をつくっている。特に同じ建物内にあるデイサービスセンターを通してつながりができている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度などの制度の理解をしてもらうために勉強会を行っている。 勉強会での内容をいつでも確認できるようにファイルにしている。	※	制度の意義や理解が得られるように、勉強会をこれからも続け、研修等にも参加する機会を作りたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ一人ひとりに責務や義務を再確認してもらう為にも勉強会を行っている。 スタッフ全員に利用者の状態を知ってもらうために利用者ノートなどを作成し目を通すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に利用者・家族と話し合いを行い、契約の説明も行っている。	※	入居後のご家族との信頼関係を築くために、面会時や電話等を通じて情報交換を行っている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの不満や苦情があった時は、スタッフ職員間で相談し、改善が出来るところは行い、運営に反映している。	※	日々、利用者との信頼関係を築くと共に、不満や苦情がなくなる様に努めたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ホームで発行している新聞で暮らしぶりの写真等を掲載しご家族宛に郵送している。 また、金銭出納長等など金銭に関わるものは面会時に見て頂き報告を行っている。 <hr/> (外部評価) 暮らしぶり等は写真を多く盛り込んだ毎月の便りで知らせている。健康状態や金銭の報告は面会時または電話で知らせている。	※	個々に合わせた細かな事も報告しているが、電話での対応が多い。報告の方法を改善すように努めたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けたり、家族会等で意見交換を行ったりし、それらを記録に残すとともに、運営に反映させている。 <hr/> (外部評価) 近隣の方が多く、気軽に来訪する家族がほとんどなので、常に話し合いがもたれており、出された意見をできることから日々のケアに活かしている。	※	もっと多くにの意見交換を行える場を設ける事で、よりよく意見交換が出来るようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案は個々に求められ反映されているように思える。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の調整はスタッフ間で話し合い職務に支障がないように行われている。	※	突然の勤務の変更や要望に対応出来る様、スタッフ職員間の話し合いを行える場を増やしたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) スタッフ職員一人ひとりが「利用者に対して分け隔てなく対応が行えている為、めだつた混乱などのダメージは見られない。  (外部評価) 一度に多くの職員が異動することはなく、どの職員も全ての利用者と馴染みの関係を築いており、代わることによる混乱は生じていない。	※	運営者は、スタッフ職員の異動の際に、異動したスタッフ職員に代わる代用者を配置で出来ている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会やフォーラムに参加できるように費用の負担をしている。  (外部評価) 月に一度、テーマを決めて勉強会をしている。外部の研修会の情報を提供し、必要なものまたは希望によって受講できるようにしている。	※	研修会等の参加はあまり出来ていない。スタッフ職員の個々の能力に応じた研修会への参加を促すようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 社内の系列のホームとの交流が月1回開催されているが管理者だけでスタッフ職員間では交流する機会があまりない。	※	他のホームの管理者に相談するも、決まったホームの管理者だけになっているため、分け隔てなく他のホームの管理者や職員との交流が出来るように努める。
			(外部評価) 法人内の系列グループホーム間の管理者交流の場はあるが、職員同士の交流まではしていない。	※	他法人の同業者ともネットワークをつくり、管理者、職員ともに参加して勉強会や交流をもつことで、日頃の悩みの解消などを通してホームのサービス水準の向上につなげていくことが望ましい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ職員と飲み会や食事会を行い、相談や問題の解決ができるように努めている。	※	勤務のローテーションの関係もあり十分な休養が出来ていないと思う。勤務に無理が掛からない範囲内で十分休養できる様に勤務のローテーションを行いたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 自己評価を行い、それらを元にスタッフ職員個々の悪いところ・良いところを見極めて改善できるように指導している。	※	ケアカンファレンス時など職員が集まる場でスタッフ職員の良いところや悪いところを伝え、それを元に自信に繋げたり、改善してもらったりしている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 常に一人ひとり声かけをし、言いたい事を伝える範囲に努めている。	※	不安な事や求めている事を振払できる様に努めたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時などに声かけをし、努力はしている。 また、事前調査時に、利用者本人・利用者ご家族から十分に話を聞くようにしている。	※	不安な事や求めている事を振払できる様に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時にはもちろんの事ではあるが、他のサービスも本人・ご家族に応じた物がある場合、出来る限りの事はしている。	※	今後も必要とされるサービスの為、今まで以上に利用者本人や利用者ご家族の求めるニーズに沿える様に努めたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族と連絡を取り合い、徐々に良い方法であるか見極めながら行っている。  (外部評価) 本人、家族に繰り返し来訪して見学してもらうことで不安を解消し、自然に馴染んでもらいながら入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の話を良く聞き、喜んだり楽しんだりしている。  (外部評価) 季節の話題や地域の慣わしの話などを聞かせてもらったり、広告でゴミ箱を折るなど生活の知恵を教えてもらって活用している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は一緒に話し合う事もある。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 訪問の際には、ご家族だけで話し合いが出来る様、常に声かけをしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に見られた時は、いつでも訪問して頂く様に声かけをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が出来る事(例：体操など)常に声かけをし、関わる場を作るように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用者の現在の状態であるかを訪問されたときに現在の状態を報告行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望や意向に添えるように努めている。  (外部評価) 利用者の住まいを訪問し、生活ぶりを把握して日々の暮らしに活かしている。毎日のなにげない会話の端々から希望や意向を汲み取る努力をしている。	※	利用者本人やご家族から家庭での生活状況などから利用者の一つでも多くのサービスが提供できる様、当ホームに入居されてからの表情や動作から少しの変化を読み取る能力を身につけるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活暦を大切にし、サービス利用に努めている。	※	事前調査で少しでも多くに情報を利用者本人やご家族から得られるように努めている。 また、事前調査での情報だけでなく当ホームに入居してからの様子も参考にしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 特に心身状態は気をつける様に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを設け、意見出し合し合い一人ひとりについて介護計画を作成し、それに向けて努めている。  (外部評価) 常にケアの評価ができるよう、日々の生活記録の上にケア目標を掲げ、担当者が利用者本人・家族の要望を把握して土台を作成した上でカンファレンスを行い、それぞれの気づきを出し合って介護計画を作成している。	※	ケアプラン作成後も変化があれば随時プランの変更を行い、利用者に合ったケアプランが提供が出来る様に努めたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 見直しはできていないが変化が生じた時は、スタッフ職員同士で伝達をし、記録し、現状に即した介護に努めている。  (外部評価) 月一回のカンファレンスで見直しをし、少しでも変化があれば小さなカンファレンスを繰り返し、一人ひとりの状態に即した具体的な計画を作成している。	※	話し合いは必要だし、新たな計画の立て直しをしていくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務日誌など日々の記録を行い勤務交代時に申し送りを行っている。 また、利用者用個別送りノートやスタッフ用送りノートなどで情報の共有が出来るようにしている。	※	記録を記入する際、結果だけではなくその結果に至るまでのスタッフ職員の介助の方法や利用者の反応などを記入できるように努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現段階では十分に事業所の多機能を活かしているとはいえない。現段階で行っているのは利用者に応じた福祉用具の支援程度である。  (外部評価) 病院受診や墓参り、自宅への外出など利用者の要望にそった支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議等の地域の方々が集まる場で、協力の御願いを行っている。	※	もっとボランティアなどの協力を得るように努めたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性があれば、他のサービス関係者の方々と話し合いを行い対応する。	※	必要に応じて対応していくように努めたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者・利用者のご家族の希望する医療機関で医療が行える様にしている。 また当グループホームの係りつけの主治医による医療が行えるなどの説明を行っている。  (外部評価) かかりつけ医は様々だが、ほとんど職員が付き添って受診しており、日々の状態を医師に伝えて医療との連携を密にしている。受診結果については必ず家族に報告している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) スタッフ職員同士で勉強会を行って話し合ったり、主治医に利用者の状態を報告を行いながら検討・支援を行っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、契約を結んでいる医療機関より、利用者の状態を確認する連絡があり日々の状態を報告している。 また、スタッフ職員の配置の際、看護師を各階に配置している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院された場合、面会に行く事で不安を軽減し、安心してもらえる様に配慮を行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居契約時に、利用者・利用者ご家族の意向を聞き、医療連携体制の同意を得るようにしている。 また、利用者の状態によりその都度、主治医や利用者ご家族と相談しながら方針を共有している。  (外部評価) 細部にわたるマニュアルをつくり、入居時に家族と話し合い確認を行っている。これまでの事例を通して方針を共有しているが、職員は不安を抱えている面もある。	※	方針や対応を理解しているつもりでも、家族の気持ちは状況の変化によって揺れ動き、不安が増してくるので、繰り返し医療関係者、職員、家族で話し合いを重ね、利用者の尊厳を第一に考えながら対応していくことが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 運営者や主治医と共に、重度化や、終末期の話し合いをし検討や準備を行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な情報交換は出来ているが、本人のダメージを少なく出来るかどうかはわからない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーは大切にしているつもりだが、言葉かけ等に少し反省すべき時もある。 記録等も頭文字で記入している。  (外部評価) 言葉かけや話し方には十分配慮し、人格を損ねることがないように注意している。個人情報にかかわる記録は他の人の目にふれないよう配慮して取り扱っている。	※	声かえや記録の記載方法などの勉強会を行い、充実した記録が残せるように努めたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 何度も何度も繰り返し、職員が質問に対しては同じ事を言って納得する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに合ったペースで支援はしているが、希望に沿えているかどうかはわからない。  (外部評価) 朝は利用者のペースで起床してもらっている。その他、畑に出かけたり、歌をうたったり、好きなことをして過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 清潔感を保ち、髪をとかしたり、髭をそったりなどスタッフ職員で出来ることは行っている。 また、希望があれば理髪店に行くことも可能にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを聞き、献立に取り入れ出来る人には、準備を御願ひし、一緒に食事をしている。  (外部評価) 座る位置や順番を工夫して、利用者それぞれがゆっくり食べることができるよう支援している。片付けを積極的に手伝ってくれる利用者があり、お任せしている。	※	当ホームの畑で野菜を栽培し、それをスタッフ職員と一緒に収穫する事で利用者の在宅での暮らしを再現し、食事を楽しんでもらえるように努めている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物、おやつ等にできるだけ取り入れている。	※	食事の摂取量や水分摂取量の少ない利用者には食事時に出して、少しでも摂取してもらえるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 日中は声かけをし、出来る限り排泄が出来る様に誘導している。 夜間は自分でトイレに行かれる利用者は見守りを行い転倒に気をつけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) いつでも、入浴が出来る様（気持ち良い事だと知って頂く様）にタイミングに合わせた声かけをしている。  (外部評価) 要望があれば毎日でも入れるようにしている。車いすの方も湯船に入り、ゆっくりつかれるよう介助している。また羞恥心を抱くことがないよう同性介助に配慮している。	※	利用者によっては夜間に入浴を希望される利用者もいるので、夜間の入浴も出来る様にスタッフ職員の勤務等を工夫して行えるように努めたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりがその時々に応じて、気持ちよく休息したり眠れたり出来る様に努めている。	※	利用者によっては、夜間眠れない利用者には眠剤等を使用し、安心して気持ちよく休められるように努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 出来る事は声かけをし、一緒に作業をしてもらっている。  (外部評価) 料理、掃除、洗濯などの家事を担当している時はいきいきと目が輝いている。歌をうたったり塗り絵をしたり、様々な趣味の活動ができるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はホームに金庫で預かり、必要な時に管理者に相談し金庫より出して使用できるようにしている。 また、利用者本人が現金の所持を希望している時は、利用者本人とご家族と相談し、少ない金額を所持してもらっている。	※	お金を所持している利用者もいるが、ほとんどの利用者ではないし、使う場所にあまり出かける事がないのもっと出かける機会を作りたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 月の行事で外出をする機会を作り、外出するように努めているが、利用者によっては外出する事が嫌いな利用者もいる為利用者全員が外出する事が出来ない。 希望のある利用者はその都度スタッフ職員間で協力し、出かける様に努めているがなかなか行えていない。	※	一人ひとりの介護がいる為、なかなかその日の希望通りに戸外に出かける事ができない。 今後は日常的な外出も検討したい。
			(外部評価) 日用品を買いに行くなど、要望があれば気軽に出かけるように支援している。	※	
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 訪問された時に一緒に外出が出来る様にしている。	※	普段行けない場所はスタッフ職員間で協力し行ける様に努めたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話はいつでも使用できるように配慮している。	※	書く事の支援は時々進めているが、文章になかなかならず困難な為、書きたい内容を尋ねる様にしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰が訪問に見えても、居心地良く過ごせる様に気配りをしている。	※	面会者が来られた場合、気持ちの良い挨拶をする様に心がけ、お茶等を提供し、利用者との会話を楽しむ事が出来る様に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ職員全員が利用者に声かけや現在の心理状態を聞く事で心身共に配慮する事で身体拘束を行わないように努めている。	※	夜間帯のスタッフ職員の目が届かない場合や、転倒する恐れのある利用者には、ご家族と相談し、ベッド柵を使用したり車椅子用のテーブルを使用し転倒防止に努めている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 三階玄関・ベランダ・非常口に鍵は設置しているが、いつでも外出ができるようになっている。玄関にはチャイムがついており、いつ来客が来られても接客できる位置でスタッフ職員が利用者を見守りを行っている。  (外部評価) どこからでも入り口が見渡せるので、外出の兆しがあればいつでも寄り添って出かけるようにしている。三階建ての洋館になっており、一階のデイサービスの受付前を必ず通るので、外出を察知することができる。	※	利用者の日中の精神状態によって、興奮や混乱、俳諧等がある場合など必要に応じて鍵を使用することがある。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は出来るだけフロアで過ごされる利用者が多く、少数の利用者は自室で過ごされている。自室で過ごされている利用者に対しては出来るだけ訪室するなどし、常に利用者がどこにいるか確認するように努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険性のある物品等はスタッフ間で、管理場所を決め、保管を行っている。	※	利用者の服薬はスタッフ職員が食事後に手渡しにて服薬された事を確認するなど、利用者の服薬管理を行っている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 報告書やヒヤリハットを作成し、事故が起こった場合必ず記入してもらいケアカンファレンスや業務カンファレンスの場で報告しスタッフ職員全員で今後事故が起きないように話をしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応表や緊急連絡網を掲示し、スタッフ職員に説明を行っている。 だが、緊急時に迅速に対応できる自信はない為、不安である。	※	定期的な訓練は行っていないので、急変や偶発的な事故が発生した時の対応が出来る様に取り組みたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火訓練を実施した事はあるが地域の人々の協力を得られる様に働きかける事が出来ていない。  (外部評価) 年二回の避難訓練を実施している。車いすの方が半数近いので、非常階段を利用して避難するにはかなりの人手がいることを実感している。集中的に雨が降ると裏手の山から水が溢れてくるため、土嚢の準備もしている。	※	もう少し地域の人々の協力を得られる様に方法を考えたい。  近隣の応援を得られるよう、地域に呼びかけて住民を巻き込んだ訓練を実施し、協力体制を築いておくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居契約時に、説明を行い理解して頂く様に努めている。 また、ご家族に現状を説明し、予測し得るリスクについて相談し一緒に対策を考えるように努めている。	※	継続して、理解の協力を求めるように努めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 状態の異常が見られた時は、その都度ご家族に電話にて連絡を行い報告を行っている。	※	電話連絡後も、状態の変化に注意して、変化があれば連絡できるように、スタッフ職員が観察力をつけるように勤める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示、服薬される薬の説明を確認し服薬を行っている。	※	スタッフ職員全員が服薬されている薬に対する知識を高める為にも、勉強会や薬剤関連の辞書などを常備し自分で調べられるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 運動・食事の工夫等で取り組んでいる。	※	便秘気味の利用者には腹部マッサージを行ったり、適度の運動を行う様に努めている。また、便秘の続く利用者は便秘薬を服用し、便秘が続かないようにしている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは一人ひとりに声かけをし、入れ歯は入れ歯洗浄剤等を使用している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を多く取り入れ、入浴後の水分補給、食事の量やバランスを考えて摂取できる様にしている。  (外部評価) カロリーや栄養バランス、水分摂取の必要量を把握しており、それぞれの摂取量を記録することで確実な支援ができるよう配慮している。	※	利用者によっては食事のムラがあるので、毎食バランスよく食事が出来ているか食事量の確認をお粉手いる。摂取量が少ない場合は利用者の好きな食べ物を摂取してもらうようにしている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防の摂取など、スタッフ職員全員が必ず予防接種を受けるように勤めている。	※	肝炎・MRSA・疥癬・ノロウイルスの予防は受けた事はないので実施してほしい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具等は必要に応じ消毒し、安全で新鮮な食材を使用している。	※	使用したまな板や布巾は毎日消毒うを行っている。食品に関しては使用する食材に曜日を記入して使用している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物自体が家庭的な感じはしないが、利用者や利用者ご家族からはアットホームで心地よいなどの印象を受けられている。	※	各ユニットの入り口に季節の草花を生け、誰もが親しみやすい様に努めている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間作りは居心地の良く過ごせる様に、いつも清潔し気持ち良い様にしている。  (外部評価) 共用部分はゆったりとしたスペースがあり、半円形のバルコニーや畳コーナーといった楽しい雰囲気を感じることができるよう工夫している。また、あちこちに季節の花が飾られており、季節感にあふれている。	※	台所の調理器具は電気製品が多くなり利用者の馴染みにくくなってしまったが、調理の下準備や使用した食器を洗ってもらうなどできる事をしてもらえるようにしている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用のフロアには畳のスペースがあり、自由に思い思いに過ごせる様に空間が作られている。	※	利用者同士で利用者の居室を訪問しながらコミュニケーションが取れている。 また独りで過ごしたいときは自室で過ごせるように自分のペースで過ごせるように努めている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居契約時に、入居するにあたって必要な物を説明する際に利用者本人の使い慣れた物を持ってきてもらっても構わないことは説明は行っている。  (外部評価) ベットと整理箆箱は置かれているがすっきりと片付き、生活感があまり感じられない居室が多い。一律の長いカーテンが目につく。	※	ご家族が宿泊出来る様に配慮的な事が出来ていない。 利用者の居室には本人の希望している物や使い慣れた物を置くようにしている。
				※	居室は利用者にとってプライバシーが守られ、安心して過ごせる居場所なので、これまでの生活の延長線上として、また、終の棲家として大切に考え、馴染みの品々に触れることができるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 消臭剤等を置き、換気は状況に応じて行っている。	※	清掃やシーツ交換時に程よく行っている。 空調使用時は温度を利用者一人ひとりによって変更するなどの配慮をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 全居室が同じ作りなので、自立した生活が送れる様にはなっていないが、安全に過ごせる様には工夫は行っている。	※	廊下・浴槽・トイレなど普段から頻繁に使用されているところは手すりを設置し、段差などの転倒の恐れがないように毎朝清掃するなど利用者に安全に過ごしてもらえるように努めている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱を防ぎ、スタッフ職員が利用者一人ひとりに対し、バラバラの返答をしないように心掛けている。	※	各居室に名札を目の高さに設置し見やすいようにしている。 また、トイレから居室まだ廊下にテープ等で道しるべを作るなど工夫している。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダにはプランターを置き、草花や野菜等を植えて、利用者に水遣りなどの世話を行ってもらっている。	※	空間がない為、プランターに草花を植え、鑑賞出来る程度である。 車を使用し当ホームの畑に行き、野菜の収穫などを行事に取り入れている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の希望される事は出来るだけ意向にそえるようにスタッフ職員一人ひとりが努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日々の生活の中で、スタッフ職員と一緒に食事の準備を行ったり、一緒に食事をしたりと利用者とスタッフ職員が家族のように親しみが持てる環境を作るように心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	読書や昼寝など、干渉することなく利用者のペースで過ごしてもらえるように努めている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の今までの経験や生活暦を把握した上で、ホームでの生活を利用者一人ひとりに合わせ支援を行えるように努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者によっては外出することを嫌う利用者もあり、利用者全員で外出する事ができないが、車椅子の利用者も散歩に行ったり、季節に応じた場所に施設行事を立てて外出するように努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が希望する医師や、医療機関との連携が取れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者本人やご家族からの要望には耳を傾け、対応しているが、すべての要望に対してはすぐに行えないこともある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	利用者のご家族には入居契約時に理解して頂くように細かく説明している。入居してからもご家族からは細かく事情を聞かせてもらっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	デイサービスの利用者との交流が行えるような施設行事を行い、デイサービス利用者との交流を多するよう努める。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	開催回数を重ねる事で、少しずつではあるが、繋がりは広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフ職員同士でよく話し合い、分からない事があれば相談し、スタッフ職員一人ひとりが生き活きして働ける環境であるように努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	少数の利用者からは、不満の声が聞かれるので、不満の声がなくなるように努めたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者のご家族とスタッフ職員の信頼関係は出来ていると思う。しかし、中には現段階のサービスに満足されていないご家族もいるので、サービスの向上に努めたい。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

年頭にはスタッフ職員一人ひとりの年間目標を立てて貰い、その目標が達成できるように日々精進している。  
また、利用者本位の生活が送れ、毎日笑顔で過ごしてもらえるように努力している。慣れ親しんだ土地で昔を思い出しながら小さな幸せを感じのんびりと穏やかな生活が送れる様に共に暮らしていきたい。